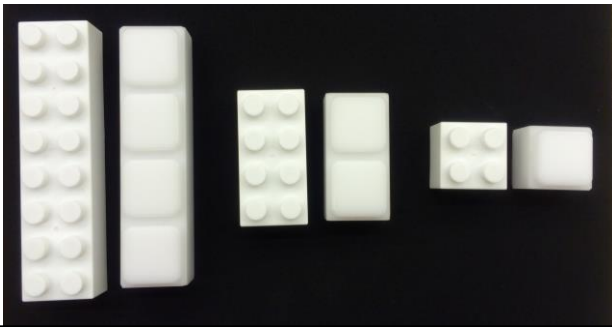


# 「ブロック構成模倣課題」 指導解説書(2020. 5. 1)

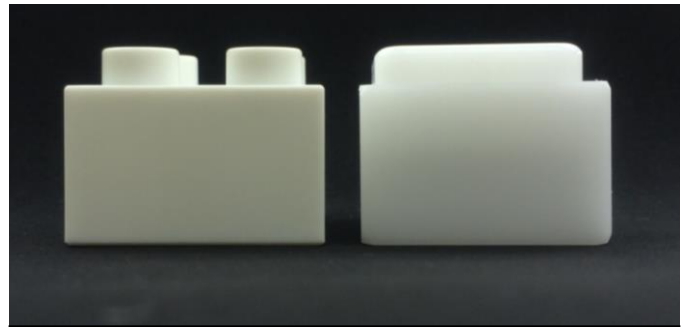
## I 教具セット

### 1. 使用教具について

本研究室では、ダイヤブロックジュニア（カワダ社製）を参考に、小（30mm×30mm×20mm）、中（60mm×60mm×20mm）、大（120mm×120mm×20mm）の大きさの盲児用立体構成ブロックを独自に作成した。盲児が触運動感覚を用いて操作しやすいように、凸を少なくし、角をとり丸みをつけてある。盲児用立体構成ブロックは製品化されていないので、指導の際には盲児が扱いやすい大きめの市販のブロック（1～3歳用）を用いるとよい。



市販のブロック（左）と盲児用立体構成ブロック（右）の比較（上から）



市販のブロック（左）と盲児用立体構成ブロック（右）の比較（横から）

### 2. 必要なブロック数

指導ステップに示してある課題を実施するために、最低限必要なブロック数は、見本分と児童構成分を含めて、小4個、中6個、大8個である。

## II 指導解説書

### 1. 課題の概要

ブロックで構成された見本を比較参照しながら同じものを構成する課題である。継時的情報を統合して全体と部分の関係把握をする必要のある盲幼児児童にとって、見本と自己の構成物と行き来しながら触り比べることは、視覚のそれに比して極めて難しい課題である。一方、比較参照して触り比べる力は、空間概念形成の基礎であるとともに、教科学習の基礎となり、盲幼児児童にとって、極めて重要な発達課題である。

本教具を通して育まれた見本を比較参照してイメージ化し空間を構成する力は、小学校段階以降の地図やグラフ、図形などの触図を比較参照しながら内容理解を深める学習や触察による観察・実験による全体像と事象の変化の把握などの教科学習、校舎内や建物の教室・部屋の位置関係などの三次元空間のイメージ化や、屋内・屋外歩行の際にメンタルマップ描く基礎となる能力として、児童期以降の視覚障害児の様々な学習の基盤となる。

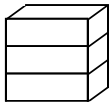
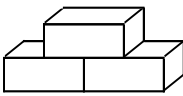
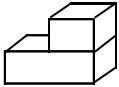
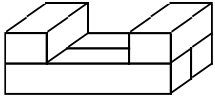
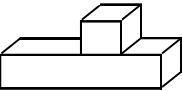
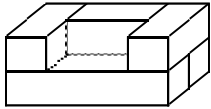
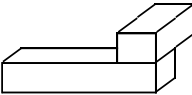
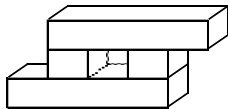
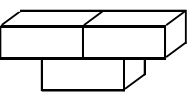
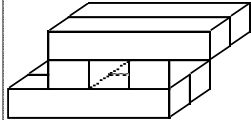
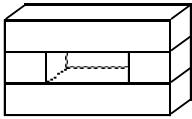
### 2. 対象

概ね4歳半～8歳程度の知的発達水準のもの。

### 3. 指導の手順

- (1) **見本の参照**：最初に、見本のブロックを提示し、よく触らせる。見本は、机上やボード上の奥に置かせる。
- (2) **構成**：必要なブロックを子どもの前に提示する。見本の記憶があいまいになった時に、見本を確認する様子が見られなければ、もう一度見本を触って参照するよう促す。
- (3) **確かめ**：子どもが構成を終えたら、見本と子どもが作ったものを、同じ向きにぴったりとくっつけて揃え、比べさせる。見本と子どもが作ったものと同じであることを一緒に確認する。子どもが作った構成物が見本と違っている場合にも、見本と比べさせ、違っている箇所に気づかせる。

#### 指導のステップ（全11課題）

課題番号	課題名		難易度	課題番号	課題名		難易度
1	三要素点課題		★☆☆☆☆	7	三要素側面不一致線課題(上部小)		★★★★☆
2	二要素側面一致線課題		★☆☆☆☆	8	上段線・下段面課題		★★★★☆
3	二要素側面不一致線課題		★☆☆☆☆	9	上段面・下段面課題		★★★★☆
4	ねじれ課題		★★☆☆☆	10	側面不一致三段線課題		★★★★☆
5	三要素側面不一致線課題(下部小)		★★☆☆☆	11	側面不一致三段面課題		★★★★★
6	側面一致三段線課題		★★☆☆☆				

### 4. 指導の留意点

- ・ **机上の環境**：ブロックが動くとも操作がしにくいいため、机の上に積み木が滑りにくい素材（フェルト素材等）を敷いて、教材が滑ることはなくとも完全には固定されないように配慮すると、操作しやすい。

(文責：東京都立葛飾盲学校 慶徳沙彩 筑波大学人間総合科学学術院 二宮一水  
宇都宮大学共同教育学部 福田奏子)

Created by Office SASHIMA

連絡先 佐島 毅 筑波大学人間系 (障害科学域)  
E-mail : sashima-t62@human.tsukuba.ac.jp  
〒112-0012 文京区大塚 3-29-1